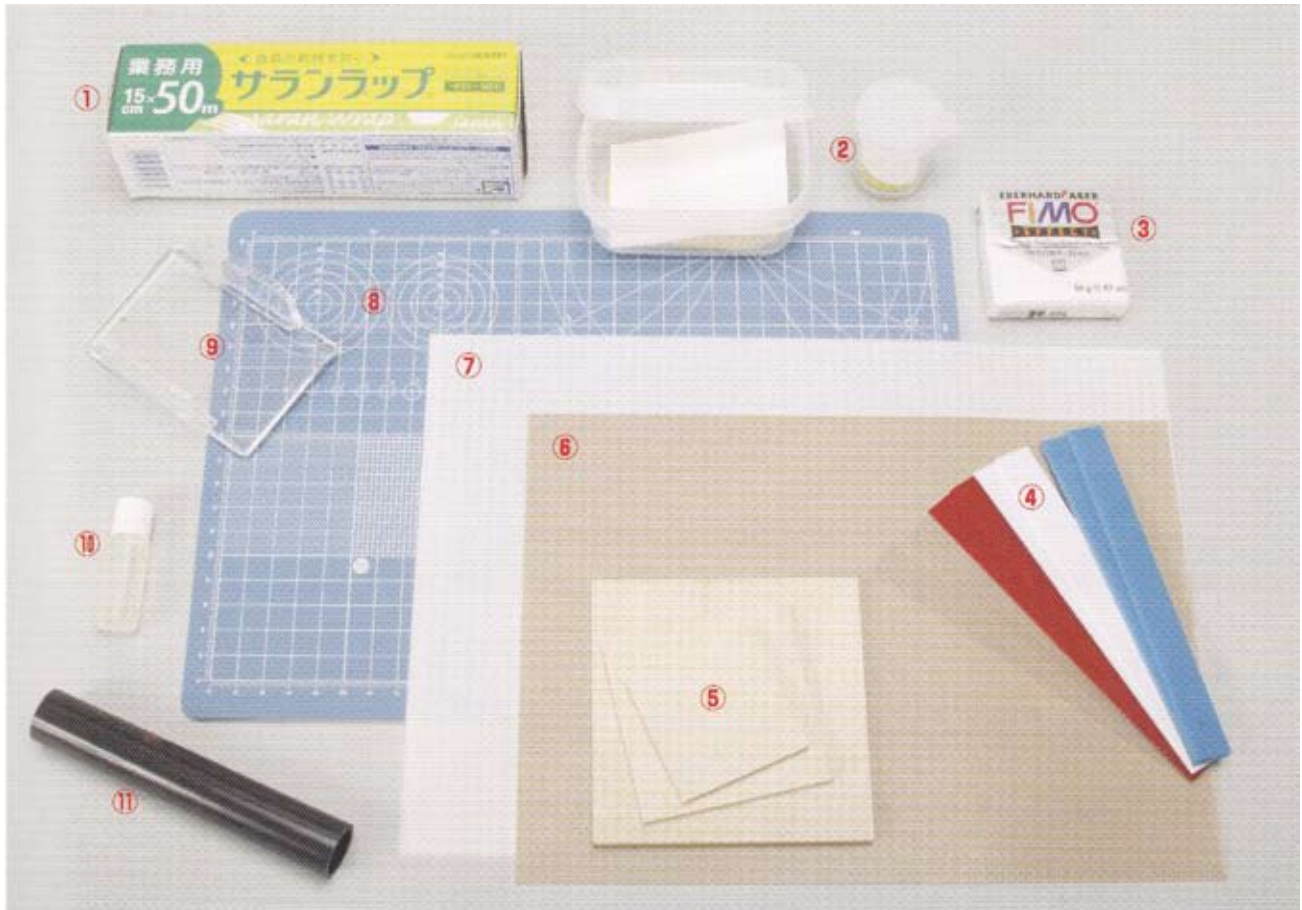


基本道具①



① サランラップ

使いかけの粘土の乾燥防止や、保管に使用。

② ウェットボックス

使いかけの粘土やペーストの保管に使用。また、乾燥した粘土を、元の水分を含んだ状態に戻せる。粘土節約には必須となる道具。

③ ポリマークレイ フィモ 014

オープンで焼くと固まる粘土。今回は練習用粘土として焼かずに繰り返し使用。

④ アクリルプレート (タタラ板)

両脇に敷いてローラーをかければ、粘土をプレートと同じ厚さにできる。0.5～5mmまで可能。(現在はエンビ製に変更)

⑤ 造形板 (ベニヤ合板)

最終の造形はこの上で完成させて、そのまま板ごと乾燥させる。

⑥ EX シート

剥離性の良いフッ素シートの裏を粘着面にしたシート。粘土に接着する道具に貼ると粘土が貼り付かない。

⑦ 耐水方眼紙

5mmの方眼が印刷されたステンシルシート。型紙やリングの造形芯材に使用。

⑧ 粘土板 (カッターマット)

方眼や円、長さや角度が書き込まれている造形用のマット。薄くオイルを塗って使用すると良い。

⑨ クレイプレッサー

取っ手付きのアクリル板。粘土を転がして空気抜きをしたり、そのまま潰したり、紐状に伸ばしたりする際に便利。CDケースなどで代用可能。

⑩ 造形用オイル

粘土がくっつきにくいように、手やマットに塗っておくオイル。べと付きが少なく、さらっとしたマッサージ用のオリーブオイルなどが最適。

⑪ ローラー

粘土を平たく伸ばす際に使用する。やや太めの物を使うと滑らかに伸ばすことができる。まっすぐな棒であれば代用可能。

基本道具②



①スライサー

直線のカットに便利な薄刃のカッター。

②ピンセット

合成石やパーツの扱いに使用。

③水筆

水を軸部分に溜めておける便利な水塗り用筆。

④ミニスプーン

端が小さなスプーンと平たいへらになっている。

⑤ピンカッター

針状のピンと先端が尖ったへらが付いている。

⑥スパチュラ

へらとミニカッターが付いた常套道具。

⑦筆

大は粘土に水を塗ったりするため、小はペーストを塗布する筆。各サイズあると便利。

⑧ストロー

粘土に穴をあけたり、カンやバチカン作りの造形の芯として使用。各サイズ揃えておくと便利。

スタンプ・テクスチャ



①刻印

押し付けるだけで図柄を写せるレザークラフト用の刻印。様々な種類が用意されている。

②ゴム板

彫刻刀やカッターで凹凸を付けて、オリジナルのテクスチャーや図柄が製作できる版画用ゴム板。

③テクスチャースタンプ

1枚に数種類のテクスチャーが刻み込まれてるゴムシート。切って使うこともできる。

④刻印

大きめの図柄が刻まれたスタンプ。ワンポイントにも最適。元々は革用の物を使用している。

⑤アルファベットスタンプ

アルファベットのゴム製スタンプ。ゴム製の色々なデザインの物も、銀粘土には有効。

型抜き・テンプレート



①デザインブッシュ

型抜きの穴にぴったりと入る棒がセットになっているため、粘土を崩さず取り出せる。純銀粘土専用が開発された商品。

②クレイカッター マルチシェイプ

粘土用の型抜き。他にも丸、四角、星等の大中小セットなどがある。

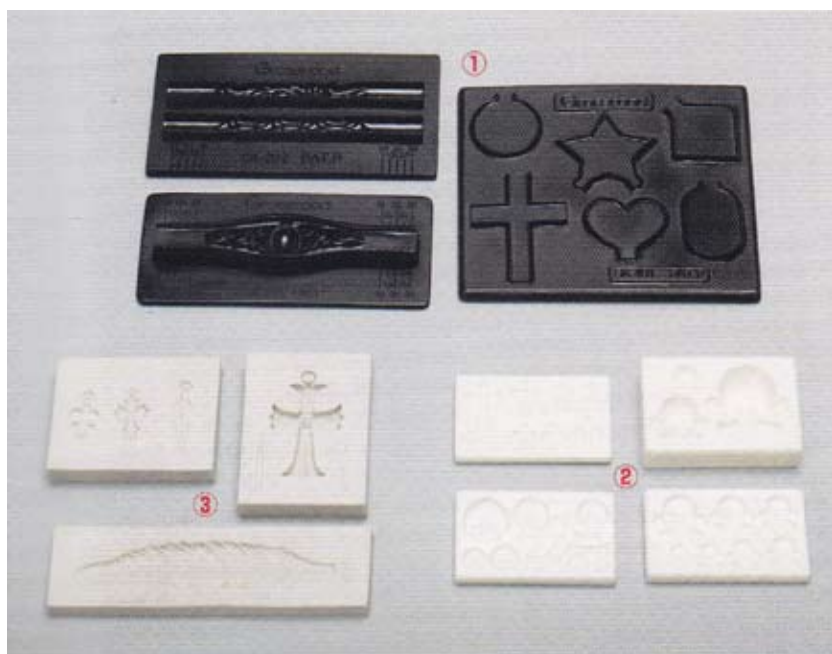
③デザインパンチ

紙から図柄の型を抜くパンチ。厚めの紙から型を抜き、スタンプのように使用する。

④テンプレート

円や楕円、カーブなどの穴が空いたプレート。好みの大きさの円やカーブなどを作り出せる。

型押し



①モールド

図柄の型に粘土を詰め込んでローラーをかけると、簡単にきれいな形を作り出し、縁のカットも同時にできる。

②シリコンモールド

こちらも同じ方法で簡単に粘土が造形できる。さらにシリコン製のため、取り出しやすく粘土が型崩れしにくい。

③ぶつくり型

小さいものは、他の作品に貼り付けることで、装飾として利用することができる。

型を作る



①ブルーミックス

2種類の粘土状のシリコンを混ぜ合わせることで硬化する。別の物から型を取る際に使用する。

②おゆまる

お湯で柔らかくなる型取り材で、繰り返し使用できる。

磨く



①研磨ネット

削り粉の抜けが良いため早く削れて長く使える。400、600、800番があると便利。

②耐水ペーパー

320、600、1200、2000番があると便利。

③造形板

ここでは耐水ペーパーの320番や600番を貼り、面出しの研磨に使用する。

④両面シート

造形板（大）に隙間なく貼り、ペーパーを接着。

⑤ゴム台

この上で研磨を行うと力が入りやすい。

⑥スポンジヤスリ

スポンジタイプの研磨材。

粗い方から赤がスーパーファイン、青がウルトラファイン、緑がマイクロファイン。

削る・造形する



①モップ筆

削りカスや銀粘土の粉末を払う際に使用する大きめの筆。

②カービング PRO

文字や立体物を彫るための、銀粘土用に開発された切削ツール。用途により針先を2段階に調節可能。

③彫刻刀

装飾やテクスチャを刻むために使用する。

④ピンバイス

穴を空けるためのツール。ドリル刃は付け替え式でいくつかの太さが揃っていると便利。

⑤ダイヤモンドヤスリ

表面の加工、仕上げなどに用いる。240番の甲丸ヤスリの大と、細かい細工用のヤスリがあれば便利。

焼成



①コンロ

種類によって火力が異なるため、調節しながら焼成する。はじめて使う物は試し焼きを行うこと。火力が低い場合は焼成時間を調節する。

②ピンセット

熱くなった作品を掴む際に用いる。

③ミニパン

銀粘土焼成用のパン。

④ステンレス網

炎を熱に変え、焼成中の温度を安定させる。

⑤アルミナボード

焼成後の作品を冷やすための耐熱台。

リングの制作



①クリアファイル

粘土板の代わりや、造形芯材の中に入れて使用。

②耐水方眼紙

造形芯材に使用する。

③指輪番型（平打用）

広幅リングのサイズを調べるために使用する。
細い幅の甲丸用もある。

④ハンマー

完成したリングの修正、サイズ変更に使用する。

⑤サイズ棒

リングをサイズ通りの大きさにするための道具。

⑥メンディングテープ

造形芯材を作る際、耐水方眼紙を留める。

⑦焼成芯材（1～30号）

焼成による縮みを希望のサイズで止める道具。

⑧セラミックテープ+アルミナテープ

焼成する時に焼成芯材に巻いて使用する。

研磨する



①研磨ネット

布状研磨材。鏡面磨きは 1000～4000 番を使う。

②耐水ペーパー

600～2000 番程度の細かい目の物を使う。

③真鍮ブラシ

焼成後の表面の結晶を潰すために使用する。

④磨きヘラ（超硬ヘラ）

銀表面を鏡面に仕上げる道具。

⑤ヤットコ

丸カン付けに使用。

⑥シルバーダスター

最終仕上げに使用する銀用の研磨材入りクロス。

⑦スポンジヤスリ

ウルトラファインやマイクロファインを使用。

仕上げに使うケミカル



①液体研磨材

金属研磨用の研磨材。非常に細かい粒子で銀表面をびかびかの鏡面仕上げにすることができる。シルバーダスターに薄く伸ばして磨く。

②シルバークリーン

銀を還元するためのケミカル。黒ずみやいぶしを取ることができる。少し白っぽい仕上がりになる。

③いぶし液/重曹

銀に様々な色を付けることができるいぶし液。黒くして凸部のみを研磨すれば上品な仕上がりになる。いぶす前に作品を重曹で洗う。